

平成 27 年度採択 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

# 平成 29 年度 事業実績報告書 (青森ブロック)

青森 COC+推進機構(青森ブロック)

青森中央学院大学 COC+事業推進事務局

# 目 次

1	ごあいさつ .....	1
	青森中央学院大学	学長 花田 勝美
	青森県立保健大学	学長 上泉 和子
	青森中央短期大学	学長 久保 薫
2	青森ブロック事業 .....	5
	(1) ブロック会議	
	(2) 就活支援ネットワーク事業	
	(3) 学生の起業支援事業	
3	教育プログラム開発 .....	13
	(1) 共育型インターンシッププログラム (主査校：青森中央学院大学)	
	(2) 女子学生のキャリア支援プログラム (主査校：青森県立保健大学)	
4	雇用創出連携プロジェクト .....	31
	(1) ツーリズム関連産業創出プロジェクト (プロジェクトマネージャー校：青森中央学院大学)	
5	参考資料 .....	39
	(1) 青森中央学院大学 COC+推進学内組織	
	(2) 青森県立保健大学 COC+推進学内組織	
	(3) その他 (青森 COC+推進機構リーフレット)	

## ごあいさつ

県内若者の定着のため、弘前大学が中心となり、県内の大学・高専や自治体・企業などが協働で取り組む「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」がスタートして3年が経過しました。

青森中央学院大学は青森COC+青森ブロックリーダー校として、参加大学である青森県立保健大学と青森中央短期大学とともに、ブロック事業、教育プログラム開発、雇用創出連携プロジェクトに取り組んでいます。

今後とも、本学においては、関係機関と連携を取りながら、県内若者の定着のため、引き続き努力して参る所存でありますので、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



青森 COC+推進機構副機構長

青森中央学院大学

学長 花田 勝美

## ごあいさつ

青森県立保健大学におきましては、平成27年度から「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」の一環として「女子学生のキャリア支援教育プログラム開発」を行っております。

人口減少問題が大きな課題となっている青森県におきましては、特に若い女性の進路選択が大きな意味を持ちますし、また現在政府が進めております「働き方改革」も女性の能力と活躍を抜きにしては語ることはできません。

本学におきましても、関係機関と連携を図りながら、このプログラム開発を通じて“青森県の地方創生”の促進に、引き続き努力して参る所存でありますので、今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



青森COC+推進機構監事

青森県立保健大学

学長 上 泉 和 子

## ごあいさつ

青森中央短期大学は、「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」の一環として、青森県立保健大学を主査校として、弘前ブロックの東北女子大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学とともにワーキンググループに参加して「女子学生のキャリア支援教育プログラム開発」に取り組んでおります。

人口減少問題を克服するためには、特に若い女性の進路選択が重要であるとともに、女性が活躍する社会の実現が喫緊の課題であります。「青森県の地方創生」に向け、引き続き努力して参る所存でございますので、今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



青森COC+推進機構参加校

青森中央短期大学

学長 久保 薫

## 2 青森ブロック事業

## 2 青森ブロック事業

青森県を、青森市・弘前市・八戸市・むつ市を中心とした4つのブロックに分け、それぞれを核とした事業を展開しているが、青森ブロックでは次の委員で構成するブロック会議を開催し、ブロック内の事業協働機関の情報共有を図るとともに、事業内容のチェックや改善策の検討を行った。

また、ブロックの特性などを踏まえて、就活支援ネットワーク事業と学生の起業支援事業を実施した。

所属・職名	氏名
青森県東青地域県民局地域連携部副参事	天間 秋佳
青森市市民政策部政策推進課長	船橋 正明
青森中央学院大学地域連携センター長・教授	高山 貢
青森中央短期大学地域連携委員長・教授	前田 美樹
青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科教授 (青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科特任教授)	出雲 祐二 (小山内 豊彦)
NPO 法人プラットフォームあおもり理事長	米田 大吉
青森商工会議所地域振興部長	鈴木 匡
青森 COC+推進機構・青森ブロックコーディネーター	佐藤 仁



## (1) ブロック会議

- |     |   |
|-----|---|
| 日 時 | 平成 29 年 7 月 24 日 (月) 10 : 00 ~ 11 : 30  |
| 場 所 | ホテル青森 4 階「桃の間」  |
| 議 事 | <ol style="list-style-type: none"><li>1 平成 28 年度青森 COC+推進機構 (青森ブロック) 事業実績について</li><li>2 平成 28 年度青森 COC+事業数値目標の達成状況について</li><li>3 平成 29 年度青森 COC+事業 (青森ブロック) の進捗状況について (青森中央学院大学、青森県立保健大学)</li><li>4 その他 (意見交換)</li></ol>  |
| 日 時 | 平成 29 年 11 月 29 日 (水) 13 : 00 ~ 14 : 20   |
| 場 所 | ホテル青森 4 階「桜の間」  |
| 議 事 | <ol style="list-style-type: none"><li>1 平成 29 年度青森 COC+ (青森ブロック) の進捗状況について (青森中央学院大学、青森県立保健大学、青森中央短期大学)</li><li>2 平成 29 年度青森 COC+ (青森ブロック) の今後の取り組み予定について (青森中央学院大学、青森県立保健大学、青森中央短期大学)</li><li>3 その他 (意見交換)</li></ol>   |
| 日 時 | 平成 30 年 2 月 28 日 (水) 13:00 ~ 14:20  |
| 場 所 | ホテル青森 4 階「桃の間」  |
| 議 事 | <ol style="list-style-type: none"><li>1 平成 30 年度 COC+事業計画について (ブロック事業・ツーリズム・共育型インターンシッププログラム) (青森中央学院大学)</li><li>2 女子学生のキャリア支援プログラム開発の取組状況について (青森県立保健大学)</li><li>3 平成 30 年度県民局重点枠事業について (東青地域県民局地域連携部)</li><li>4 平成 30 年度青森市主な取組について (青森市政策推進課)</li><li>5 求人票の早期提出について (報告事項)</li><li>6 その他 (意見交換)</li></ol> |

## (2) 就活支援ネットワーク事業

### ①合同企業見学会 in むつ

むつ下北地域の企業等を学生が訪問し、各企業等を実地に知ることにより、今後学生がインターンシップや就職の場として、選択肢の一つとして考える貴重な機会となった。

実施期間 平成 29 年 9 月 19 日 (火) ～20 日 (水)

参加学生 青森中央学院大学経営法学部 9 名

弘前大学理工学部 1 名

訪問企業等 むつ市ウェルネスパーク、(有)下北測量・下北カンブリア農場、リサイクル燃料貯蔵(株)、(株)永木精機むつテクノセンター、(株)マエダ、(株)大湊精電社



### ②企業見学会 in 青森「行員と語ろうーみちのく銀行ー」

みちのく銀行への企業見学を行い、就活を控えた 3 年の学生と若手行員との交流会を開催して、地元金融機関で働くことのやりがいやプライベートについて意見交換した。

日 程 平成 29 年 11 月 15 日(水)

参加学生 青森中央学院大学経営法学部 3 年生 9 名

内 容

- ・みちのく銀行の紹介と銀行業務について
- ・若手行員（青森中央学院大卒業生含む）との交流会と意見交換



③企業見学会 in 青森「いろんな業種をたずねよう」

異業種の3社を企業訪問し、施設見学や意見交換会、企業概要や業務内容の説明を受けるなど、普段は経験できない業務を体験したり、苦労話などを伺った。

日 程 平成29年11月17日(金)

参加学生 青森中央学院大学経営法学部 20名

訪問企業と見学内容

- ・RAB 青森放送  
番組制作現場の見学／地元放送局の業務内容・役割
- ・青森銀行  
青森銀行の紹介と銀行業務について／若手行員との意見交換
- ・富士清ほりうち  
会社の業務内容および業界動向／会社が求める学生像



④青森で働くこと、本気と本音の交流会（県委託事業）→P16

⑤企業就職セミナー

平成30年3月1日(木)に、青森中央学院大学において企業就職セミナーを開催した。本セミナーには70社を超える企業が参加し、本学経営法学部3年生が企業ブースを訪問してまわった。むつ下北地域の企業も10社参加し、企業紹介を行った。



### (3) 学生の起業支援事業

#### ① 起業セミナー及び個別相談会の開催

平成29年6月から平成30年2月にかけて、起業セミナー及び個別相談会を計6回開催し、延べ13名が参加した。21あおもり産業総合支援センターのインキュベーションマネージャーを講師に迎え、学生の起業に対する意識の醸成を図ることを目的に、企業を取り巻く環境や事業計画書の作成方法、財務会計の基礎などを学ぶことにより、参加学生の起業についての問題意識の向上に寄与した。



#### ② ホットアップルサイダーテスト販売

本学経営法学部キャリアプランニングのG-コマース(2年生)では、青森市のブランド商品づくりを目指して、温かいリンゴジュースの商品販売について企画・調査を行う「HOT-Aプロジェクト」を実施し、上記①の起業セミナー及び個別相談会に参加して、青森市の東京ビジネスセンター(AoMoLink)での東京テストマーケティング、アンケート調査を実施した。





### 3 教育プログラム開発

### 3 教育プログラム開発

#### (1) 共育型インターンシッププログラム（主査校：青森中央学院大学）

共育型インターンシップについては、本学を主査校にワーキンググループ（以下、「WG」）を構成して、WGで共育型インターンシッププログラムについての検討を行っている。平成29年度においては、9月と平成30年3月の2回開催した。

所属・職名	氏名
青森県企画政策部企画調整課基本計画推進G主査	石川 邦彦
青森市市民政策部政策推進課長	船橋 正明
青森中央学院大学キャリア支援センター長・教授	塩谷 未知
青森中央学院大学地域連携センター長・教授	高山 貢
八戸工業大学学務部次長・准教授	小玉 成人
NPO 法人プラットフォームあおもり理事長	米田 大吉
青森商工会議所中小企業相談所長	斉藤 尚
株式会社青森銀行 地域振興部 地域振興課長	鈴木 淳司
株式会社みちのく銀行 人事部副部長兼人財開発室長	山内 雅史
株式会社大坂組 代表取締役社長	大坂 憲一

（オブザーバー）

株式会社若山経営 執行役員経営支援室部長	千葉 裕仁
青森中央学院大学経営法学部 講師	奥村 俊樹



## ①WG会議の開催状況

平成 29 年度第 1 回WG会議（通算第 5 回目）

日 時 平成 29 年 9 月 22 日（金） 15：30～16：30

場 所 青森国際ホテル 5階「銀扇の間」

- 議 事
- 1 平成 28 年度の取り組み実績について
  - 2 平成 29 年度各大学のインターンシップ(短期・共育型)の状況について
  - 3 その他（意見交換）

平成 29 年度第 2 回WG会議（通算第 6 回目）

日 時 平成 30 年 3 月 13 日（火） 13：00～14：20

場 所 青森国際ホテル 5階「金扇の間」

- 議 事
- 1 平成 29 年度取組み状況について
  - 2 共育型インターンシップ WG の今後の進め方について
  - 3 その他（意見交換）

## ②共育型インターンシップ参加学生からの報告

地元企業 2 社で実施した共育型インターンシップ報告会を兼ねた「青森中央学院大学インターンシップ体験発表会」が平成 29 年 11 月 10 日(金)に開催され、学生による体験発表および受け入れ企業担当者からの感想、評価について報告があった。



### ③企業のためのインターンシップ導入セミナーの開催

県内企業では未だ認知度が低いインターンシップについて、インターンシップの具体的な手法、メリット等を学び、企業の採用力アップを図るため、企業のためのインターンシップ導入セミナーを開催した。

日 時 平成30年1月23日（火）13:30～16:00

場 所 青森国際ホテル 5階「芙蓉の間」

参加者 企業、行政、大学関係者 50名

- 内 容
- 1 基調講演  
名古屋産業大学におけるカリキュラムとインターンシップについて  
名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科教授  
石橋 健一 氏
  - 2 事例紹介  
(有)アーティストリー代表取締役 水戸 勤夢 氏  
(株)若山経営執行役員経営支援室部長 千葉 裕仁 氏
  - 3 トークセッション  
社内活性化とインターンシップについて  
共育型インターンシップガイドブックの活用について



#### ④青森で働くこと、本気と本音の交流会（県委託事業）

地元で活躍している企業経営者と地元学生が本音で交流し、地元で働くことの意味を考える「場」を提供して、地元で働くことの意味やメリットを考えるための交流会を開催した。

日 時 平成30年2月17日（土）13:30～16:45

場 所 青森国際ホテル 5階「芙蓉の間」

参加者 企業経営者、県内大学生、行政・大学・企業関係者 60名

- 内 容
- ・青森県企画政策部企画調整課基本計画推進グループマネージャーの奥田昌範氏による「青森県基本計画未来を変える挑戦～大学生の県内定着の現状」についての説明
  - ・有限会社オフィスエステ代表取締役の堤静子氏による「青森で暮らす、働く」をテーマとした講演
  - ・株式会社若山経営代表取締役の若山恵佐雄氏による「青森の元気を創る起業・創業」をテーマとした講演
  - ・学生と企業経営者が参加して「あおもりで、素敵に働くには？」をテーマとしたワークショップ
  - ・青森中央学院大学 HOT-A 研究会メンバーによるホットアップルサイダーの提供



⑤平成 29 年度講義科目「地域探究アクト」

履修学生 青森中央学院大学経営法学部 2 年生対象 10 名

内 容 青森県中小企業家同友会会員企業と連携し、学生が企業を訪問、経営者および従業員と意見交換しながら当該企業の「社史」を作成する。

①企業の「社史」を作成する過程で、地域に根差した企業経営者、従業員の様々な生き方や多様な価値観を学ぶ。

②「社史」づくりを通じて学生は、地元企業に対する認識を深め、経験や年代が異なる人たちとのコミュニケーション能力を向上させる。

⑥平成 29 年度講義科目「地域密着アクト」

履修学生 青森中央学院大学経営法学部 3 年生対象 10 名

内 容 アクティブラーニング形式により、学生が主体的に消費者問題について習得する。

①消費生活センターや金融広報アドバイザーの実務家から消費者問題の専門知識を学ぶ。

②消費者教育セミナーへの参加など積極的に外部活動を行う。



(2) 女子学生のキャリア支援プログラム（主査校：青森県立保健大学）

本学においては、「女子学生のキャリア支援プログラム」を策定する主査校として、「女子学生が自身のキャリアや生き方について適切、かつ具体的なイメージを持った上で、青森県内への就職を決定し、望む生き方・働き方をしながら県内に定着する」ことを目指した教育プログラム策定に向けて各種事業を引き続き展開しているところであるが、本年度は下記のように事業を展開したところである。

①教育プログラム WG 会議等の実施

下記のとおり開催し、事業計画や調査結果の分析などについて、協議・意見交換を行った。

所属・職名	氏名
青森中央短期大学幼児保育学科長教授	大沢 陽子
青森中央短期大学幼児保育学科教授	前田 美樹
東北女子大学講師	小野 昇平
東北女子大学講師	工藤 寧子
東北女子大学助教	三道なぎさ
弘前学院大学就職課長	高松 彰
弘前医療福祉大学学生部長	小玉 有子
弘前医療福祉大学学生課係長	間形 隆博
青森県立保健大学学長	上泉 和子
青森県立保健大学特任教授	小山内 豊彦
青森県立保健大学看護学科教授	角濱 春美
青森県立保健大学看護学科准教授	鄭 佳紅
青森県立保健大学社会福祉学科講師	廣森 直子
青森県立保健大学看護学科講師	村上 眞須美
青森県立保健大学看護学科助教	小林 昭子
青森県立保健大学看護学科助教	佐藤 しのぶ
青森県立保健大学教務学生課課長	鹿内 亮一
青森県立保健大学教務学生課就職担当	小向 千草
青森県立保健大学教務学生課事務補助員	田中 理恵
青森県企画政策部 企画調整課 主幹	楠美 太助
青森県商工労働部 労政・能力開発課 主幹	棟方 千鶴

○学内委員会：2回開催（4月13日、8月4日）

○WG 全体会議：3回開催（5月30日、9月11日、12月18日）



## ②女子学生のキャリア支援プログラム標準モデルの開発

### [1]「くらす?はたらく」シリーズ

学生に自分の「生活」と「キャリア」について、深く考察・理解してもらった上で地元定着を選択してもらうことをテーマとした教育プログラムとして「くらす?はたらく」シリーズを開催。ゲストの経験を、ポスターを使って可視化して紹介することで様々な角度から学生が、自分と比較・重ね合わせながら将来イメージを具体化しやすいようにした。別会場にしたことや、回を重ねる毎に参加者が増えたことで、新たな課題も浮き出てきた。参加した学生の満足度は毎回高い。

○session2 お金?時間 6月17日(土)開催(別紙1)

会場：青森県立保健大学⇒30名参加





## [2]企業向け採用力向上セミナー

学生の県内定着をはかっていくためには、受け皿側の意識やノウハウについても働きかけが必要であるとの観点から、採用側への県内就職を促す支援として、県外や業界の新卒採用の現状や最新のトレンド、事例紹介、採用にあたっての課題や戦略についての理解を図るものである。第1回開催前後に病院・施設から要望があり、福祉施設も含めて入門編を再開催した。この2回の入門編参加者を対象として実践編を開催し、午前は講義、午後は携帯用ホームページ作成演習の2部で構成した。

特に演習への学生の参加と成果物の掲示・投票がプログラムの工夫点であり、参加者の高評価を得られた。施設の魅力を効果的に発信することの重要性と手段を知ることが十分にできたと思われる。

### ○第2回：「採用力向上セミナー【入門編】」

要望があり福祉施設も含めて再開催（別紙3）

6月10日（土）開催⇒10施設（34名）参加





### ③女子学生のキャリア・生活指向と就職先選択に関する調査

[1]平成 28 年度に実施した女子学生のキャリア・生活指向と就職先選択に関する調査の結果を、リーフレット化し主に県内事業所に広く紹介・周知した。また、これを基に女子学生のキャリア支援プログラム標準モデルのテーマとして反映させている。

○平成 28 年度調査：集計・分析結果をリーフレット化(5 大学)(別紙 4) 12 月末に完成し、各大学・関係機関に配布

○平成 29 年度調査：12 月末に調査票を配布（17 大学）

[2]視察調査では、COC+事業の先進・特徴的な事例を調査することによってプログラム開発の参考となるデータ等を得ることができた。

○県内外の類似・先進的事例調査：大分大学、大分県庁（2/7～9）

<大分県庁>

・企画振興部政策企画課 総括 遠山実氏、副主幹平山聡氏より  
COC+全般関係

・商工労働部雇用労働政策課 総括 木部哲行氏より COC+県内就職  
関係

・福祉保健部医療政策課看護班 総括 池田裕美氏より看護科学大学  
関係

<大分大学 COC+推進機構>

・COC+特任教授 中川忠宣氏より地域創生教育プログラムについて

・大分大学研究・社会連携部長 安倍武司氏より事業体制を含めた将来的な構想について

・理工学部・応用化学コース教授 学長補佐 石川雄一氏よりおおい  
た連携ダイバーシティ推進について

### ④広報・情報発信

○女子学生のキャリア教育プログラム標準モデルの Web での公表

これまでに開発した標準モデルを広く公開することを目的として、Web サイトを現在設計・構築中である。

# くらす はたらく

**【対象】**  
県内の大学生  
(短大・専修含む)  
なら男女問わず  
たれでもOK!

## 【Session 2】

# お金 時間

 にあなたなら何を入れますか。  
=、>、<、「ように」、「または」…  
生き生きと「くらす  はたらく」  
のブラックボックス  を考え、  
キャリアについて考えていくセッションです。

■日 時/平成29年6月17日(土) 13:00~16:00  
■会 場/青森県立保健大学 コミュニティホール ※弘前方面の方は送迎バスあり。  
■定 員/30名【事前申込制】 ■参加費/無料  
■スケジュール/【第1部】ゲストトークセッション 【第2部】ゲスト&学生ワークショップ

コーディネーター  
フリーアナウンサー  
榎澤ふじこさん



ゲスト  
青森市認定こども園  
園内幼稚園  
幼稚園教諭  
村川 亜耶さん  
東北女子大学卒  
入社4年目



看護師  
丹野 真理子さん  
青森県立保健大学卒  
看護師として5年勤務後、  
大学院へ入学 (修士1年)



黒石市国民健康保険  
黒石南勢栄集科  
管理栄養士  
福士 実希さん  
青森県立保健大学卒  
入社5年目



青い森鉄道株式会社  
経営戦略課  
鉄道会社員  
田名辺 一至さん  
筑波大学卒  
入社3年目



〈お申し込み先〉  
【TEL】017-765-2144  
青森県立保健大学教務学生課 小向  
【メールアドレス】joshicarri@auhw.ac.jp  
件名に「6/17参加申込」と入れ、本文に大学・学部  
・学年・住所・氏名・電話番号・メールアドレスを  
ご記入の上、お送りください。  
【こくちーずから】  
<http://kokucheese.com/event/index/468914/>



申込み期限 平成29年 6月10日(土)

主催：青森COC+推進機構 女子学生のキャリア支援WG  
(青森県立保健大学、東北女子大学、弘前医療福祉大学、弘前学院大学、青森中央短期大学)  
問い合わせ先：青森県立保健大学 青森市箕館字園瀬58-1 TEL:017-765-2144

次回予告：Session3 都会  田舎

くらす ? はたらく

【対象】  
県内の大学生  
(短大・専修含む)  
なら男女問わず  
だれでもOK!

【Session3】

都会 ? 田舎 (ふるさと)

にあなたなら何を入れますか。  
=、>、<、「ように」、「または」…  
生き生きと「くらす ? はたらく」  
のブラックボックス ? を考え、  
キャリアについて考えていくセッションです。

- 日 時/平成29年12月9日(土) 13:00~16:00
- 会 場/東北女子大学 2F 多目的ホール  
※弘前市⇄青森市の送迎バスあり。
- 定 員/50名【事前申込制・抽選】 ■参加費/無料
- スケジュール/【第1部】ゲストトークセッション 【第2部】ゲスト&学生ワークショップ

コーディネーター



一般社団法人男女共同参画  
地域みらいねっと  
代表理事  
小山内 世喜子さん  
キャリア支援士、男女共同参画社会づく  
りの活動を県内外で展開し23年。自分  
らしく生きていたいあなたを応援します。

ゲスト



千葉県八千代市立  
重田南小学校  
教諭  
黒田 亜樹さん  
東北女子大学卒  
入社11年目



医療法人芙蓉会  
村上病院  
看護師  
佐藤 由理さん  
弘前学院大学卒  
入社1年目



作業療法士  
二本柳 美里さん  
弘前医療福祉大学卒業  
入社11年目



弘前大学医学部附属病院  
栄養管理課  
管理栄養士  
平山 恵さん  
青森県立保健大学卒  
入社4年目



（お申し込み先）

【TEL】017-765-2144  
青森県立保健大学教務学生課 小向

【メールアドレス】joshicarri@auhw.ac.jp

件名に「12/9 参加申込」と入れ、  
本文に大学・学部・学年・住所・  
氏名・電話番号・メールアドレス  
をご記入の上、お送りください。



↑メールがきます

申込み期限 平成29年11月25日(土)

主催：青森COC+推進機構 女子学生のキャリア支援WG  
(青森県立保健大学、東北女子大学、弘前医療福祉大学、弘前学院大学、青森中央短期大学)

問い合わせ先：青森県立保健大学 青森市浜館字間瀬58-1 TEL：017-765-2144

次回予告：Session4 ライワーク ライワーク

好評につき第2弾!

# 採用力向上 セミナー【入門編】

～あなたの職場の魅力、うまくアピールできていますか?～

第1部は、今の新卒採用の現状や最新のトレンドと、事例紹介についてお話ししながら、採用に当たっての課題や戦略について、具体的に・わかりやすく解説をいたします。  
第2部は、それぞれの職場の採用に対する課題・魅力を発見するためのワークショップをします。尚、現在開催中の【実践編】と併せてご参加いただくことをおすすめします。  
本セミナーは、2016年に開催した【入門編】と同様の内容です。



【第1部】10:00～11:45

## パネルディスカッション 「新卒採用の現状・事例紹介」

①新卒採用の現状 ②課題 ③戦略

パネリスト:(株)エス・エム・エスキャリア

ナース専科就職ナビグループ責任者 北村 翔太 様

コーディネーター:(株)オフィス55 代表取締役 高木 茂

【第2部】13:00～15:00

## ワークショップ

①あなたの職場の課題 ②あなたの職場の魅力を発見

③発表

コーディネーター:オフィス円香 大坂 彰子

■日時/平成29年 **6月10日(土)**  
10:00～15:00 (受付9:30～)

■会場/ラ・プラス青い森 2階メープル (青森市中央1-11-18)

■定員/10施設 (定員を越えた場合は先着) ■参加費/無料

■対象・参加条件

①青森県内の新卒者就職採用を予定している施設

↑前職2～5名(経営部門管理者と人事・採用担当者両方が含まれていること)

②青森県内の新卒者雇・介護・福祉系の採用を検討している施設

↑事業所のうち、採用担当者2～5名

■申込方法/裏面に必要事項をご記入の上、FAXにてお送りください

応募締切/平成29年5月23日(火)

コーディネーター



(株)オフィス55 代表取締役 高木 茂

1950年秋田県生まれ。1972年中央大学卒業。同年(株)リク  
ガート入社。1988年(株)リクガートメディアコミュニケーション  
ズ取締役。人事部長兼労務部長に就任。2005年(株)  
オフィス55を社内に設立。その後ジョブカフェにてセン  
ター長等職任。東北地方を中心に人的資源確保に関する発行  
論文、書籍等が、就職士会誌などの企業向け雑誌や法規  
誌と共に採用者の就職支援などのサポートを支えている。

オフィス円香 代表 大坂 彰子

専門学校卒業後、松下電工株式会社 地方事務本部人事課  
人事課長として2社。自治体事務にて社員管理課長を歴  
任。キャリアコンサルタントとして独立。青森県と大館市  
を拠点に、自治体関係、労働組合の職人社会福祉部や高校生・  
大学生の進路ガイダンス講師として活動しながら、大学  
進路指導協会、全国的機関の講師等にも携わる。



青森大学  
地(知)の拠点

あおもり  
で

## 専門職を目指す女子学生は どこで暮らす?働く? どのように暮らす?働く?

～学生の「ホンネ・キモチ」を知る～

平成27年度採択 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」  
青森COC+推進機構 女子学生のキャリア支援WG  
平成29年度 キャリア・生活指向と就職先選択に関する調査結果

＜女子学生のキャリア支援WG大学＞

- ・青森県立保健大学
- ・青森中央短期大学
- ・東北女子大学
- ・弘前医療福祉大学
- ・弘前学院大学 (2018年度)

＜お問い合わせ＞

青森県立保健大学  
〒030-8505 青森市大学浜館字階瀬58-1  
TEL:017-765-2144 FAX:017-765-2188  
http://www.auhw.ac.jp

## どこで暮らす?働く? どのように暮らす?働く?

まずは、県内の大学生に聞いてみました!

平成28年2～3月に青森県内の大学生・卒業生を対象に、学生のキャリア・生活指向と地元定着の意識を知るためのインタビュー調査を実施しました。

【調査結果】  
調査対象:青森県内の医療福祉関連大学の大学生・卒業生53人  
実施時期:平成28年2～3月  
インタビュー内容:①就職選びから決定までのプロセス  
②就職先選びから決定までのプロセス、就職先を県内または県外に決定した理由  
③これからの生活設計・ライフイベントについての考え

【インタビュー結果】  
学生の心は天秤のように揺れていました!

◆青森の質上や文化が好き!  
◆青森の人は温かい。  
◆職業に誇りを持って世界を活躍したい。  
◆定年退職を早くしたい!

◆家族と一緒にいたい!  
◆親の心配を減らしたい。  
◆パートナーについてほしい。

◆やりがいとつながりがある。  
◆専門性が高い。  
◆給与水準が安定している。  
◆将来のキャリアアップが期待できる。

◆思い通りに働く世界をみたい。  
◆県外で働きたい。  
◆30歳までに結婚・出産し、それからはキャリアアップ。

学生は、「文化・地域への価値」「人とのつながり」「仕事・職場への価値」「将来設計」の間でバランスを取り、自分が豊かで楽しい生活を送りたい、卒業後の生き方を決めていくことが示唆されました。そこで、この結果をもとに、アンケート調査を実施しました。

## キャリア・生活指向と 就職先選択に関する調査

平成28年度末に、青森県内5大学等の最終年度学生にアンケート調査を実施しました。

【調査結果】  
調査対象:青森県内の医療福祉関連大学5校の最終年度学生(789人)  
回答者数:490人(回収率62.1%)  
調査内容:基本属性(性別、所属学科等)、出身地、就職先所在地、女性の就業イメージ、キャリア・生活指向に関する考え、就職先選択の動機に重視したこと

回答者はこんな人たちです。

【調査結果】  
1.どこで働くことに決めたの?いつ決めたの?

【就職地】

- 青森県内(191人) 39.2%
- 青森県外(59人) 11.9%
- 北海道(4人) 0.8%
- 東北圏(4人) 0.8%
- 関東圏(28人) 5.7%
- 中部圏(2人) 0.4%
- 近畿圏(2人) 0.4%
- 中国圏(1人) 0.2%
- 四国圏(1人) 0.2%
- 沖縄県(1人) 0.2%

【出身地と就職地】

【就職地を決めた動機】

- 1位 入学時(128人).....(26.1%)
- 2位 4年次(119人).....(24.3%)
- 3位 3年次(107人).....(21.8%)
- 4位 2年次(SSA).....(11.2%)
- 5位 1年次(48人).....(9.8%)



## 4 雇用創出連携プロジェクト

## 4 雇用創出連携プロジェクト

### (1) ツーリズム関連産業創出プロジェクト

(プロジェクトマネジャー校：青森中央学院大学)

#### ①ヘルスツーリズム

##### ・ドイツ式健康ウォーキングの実施

ヘルスツーリズムのビジネス化に向けた取り組みの一環として、浅虫温泉海山クア（健康）の道でのドイツ式健康ウォーキングを実施した。5月、6月、7月、9月、10月の計10回実施したが、参加人数は延べ192名で昨年度より72名減少した。（事業協働機関である青森銀行行員向けのウォーキング参加者を含む）



・ドイツ式健康ウォーキング・ガイドサポーター養成研修会の開催

日 時 平成 29 年 6 月 22 日 (木) 17:50~19:15  
 場 所 青森中央学院大学 7号館 761 教室  
 参加者 29 名 (うち学生 14 名、教職員 10 名、一般 5 名)  
 報 告 実地研修の学びから「クアオルトガイドサポーター実地研修会 in かみのやま」  
 報告者 伊勢田紗彩、二本柳千佳、藤田梨緒  
 講 師 あおもりクア (健康) ガイド協会 会長 野宮 正宣氏



・ドイツ式健康ウォーキング実績報告会の開催

日 時 平成 30 年 3 月 12 日 (月)  
 場 所 青森商工会議所 2階 会議室  
 内 容 平成 29 年度浅虫温泉クア(健康)ウォーキング実績について  
 COC+事業の報告について  
 来年度の事業展開について

・「浅虫温泉海山クアの道」ガイドブック (健康データ編) の作成

ドイツ式健康ウォーキング「浅虫温泉海山クアの道」を紹介する携帯ガイドブック (健康データ編) を作成し、同ウォーキングの県内外への周知を図った。

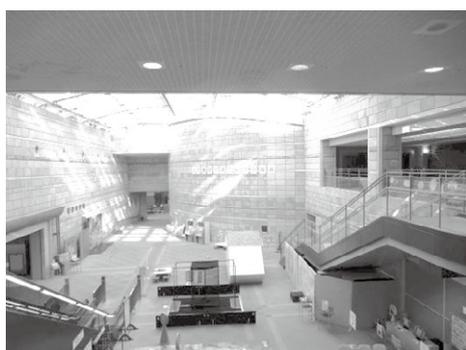


・宿泊型新保健指導事業（スマート・ライフ・ステイ）の実施検討

ヘルスツーリズムのビジネス化に向けた取り組みの一環として、厚生労働省が提唱している宿泊型新保健指導事業（スマート・ライフ・ステイ）について、先進事例を調査するなど実施に向けた検討を行った。

調査先 あいち健康の森健康科学総合センター（あいち健康プラザ）  
愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山 1-1

調査期間 平成 30 年 2 月 8 日～9 日



## ②サイクルツーリズム

### ・サイクルツーリズムの推進・課題についての検討

青森中央学院大学が事務局を務めている青森県サイクル・ツーリズム推進協議会と連携し、5月から毎月開催された誘客促進ワーキンググループ会議に出席し、青森県でのサイクルツーリズムの推進・課題について検討を行った。

### ・サイクルツーリズムセミナーの開催

日時 平成29年9月12日(火) 14:00～15:30

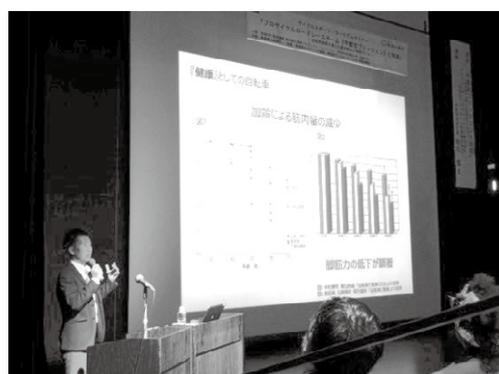
場所 ねぶたの家ワ・ラッセ 2階 イベントホール

出席者 90名(青森県サイクルツーリズム推進協議会会員、教育・スポーツ関係者、観光関係者、自治体関係者、学生、一般)

内容 「プロサイクルロードレースチーム『宇都宮ブリッツェン』と地域」～自転車振興を通じた雇用創出と地域づくり～

講師 サイクル・スポーツ・マネジメント株式会社

代表取締役社長 柿沼 章 氏



- ・台湾からのサイクル・ツーリズム等の誘客に関する公開研究会の開催
  - 日時 平成 29 年 12 月 21 日(木)13:30~15:00
  - 会場 青森県観光物産館アスパム 9階 津軽
  - 出席者 40名 (南臺科技大學大学院生、青森県サイクルツーリズム推進協議会会員、教育・スポーツ関係者、行政・観光関係者、学生、一般)
  - 講演者 南臺科技大學観光学部准教授 潘盈仁氏  
南臺科技大學交際交流センター長 鄭玫玲氏
  - 内容 「台湾からのサイクル・ツーリズム等の誘客について」  
サイクル・ツーリズムの先進地である台湾の現状と、台湾からの誘客について



・サイクリングガイド養成に向けたセミナーの開催

日 時 平成 30 年 3 月 11 日（日） 14：00～16：00

場 所 青森中央学院大学看護棟 1 階フリースペース

出席者 30 名

内 容 街中サイクリングガイドの基礎

青森県のサイクリングガイドを目指そう

～ポタリングの基礎を学ぼう～

1 交通ルールの基礎・知識、安全の配慮、ルートづくり

講師：日本サイクリング協会認定サイクリングガイド

江利山 元気 氏

2 ペダルレストの取り扱い

講師：日本サイクリング協会認定サイクリングガイド

花田 カズオ 氏

3 実演(バイクメンテナンス、パンク修理)

サイクルショップ西野 代表 西野 剛 氏



- ・「CYCLING MAP AOMORI」の作成  
ふだん自転車に乗ることの少ない旅行者等でも散歩感覚で気軽に自転車を楽しむことができるコース開発を青森中央学院大学の学生が中心となってい、青森市内を自転車で巡るコースマップを作成した。



### ③ツーリズム（観光）関連産業ワーキンググループ会議の開催

雇用創出連携プロジェクト「ツーリズム（観光）関連産業」を全県的に推進するために、プロジェクトマネージャー（PM）を座長として、各ブロックのリーダー校をメンバーとするワーキンググループを構成して、全県的に推進するための検討を行った。

<WGのメンバー>

青森中央学院大学地域マネジメント研究科長・教授	内山 清（座長）
弘前大学副理事・教授	森 樹男
八戸工業高等専門学校 教授 （オブザーバー）	齊藤 貴之
青森中央学院大学経営法学部 教授	岩船 彰
青森中央学院大学地域連携センター長・教授	高山 貢

#### 【ツーリズム関連産業ワーキンググループ会議（紙上）】

開催日 平成30年3月14日（水）

- 議 事
- 1 平成30年度雇用創出推進プロジェクト（ツーリズム）事業計画について
  - 2 ポタリング（街中サイクル）の推進について

## 5 參考資料

## 5 参考資料

### (1) 青森中央学院大学 COC+推進学内組織

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）について、全学的な取り組みが必要不可欠なことから、学内 COC+運営委員会、COC+推進チーム及び学内 COC+事業評価委員会を設置して推進している。

<学内 COC+運営委員会の開催>

#### 【平成 29 年度第 1 回（通算 4 回）COC+運営委員会】

日 時	平成 29 年 5 月 24 日（水）10：30～11：30
場 所	本部棟 8 階会議室
議 事	1 平成 28 年度 COC+事業実績（青森ブロック）について 2 平成 28 年度青森中央短期大学 COC+女子学生のキャリア支援プログラム活動実績について 3 平成 29 年度 COC+事業計画（青森ブロック）について 4 その他（意見交換）

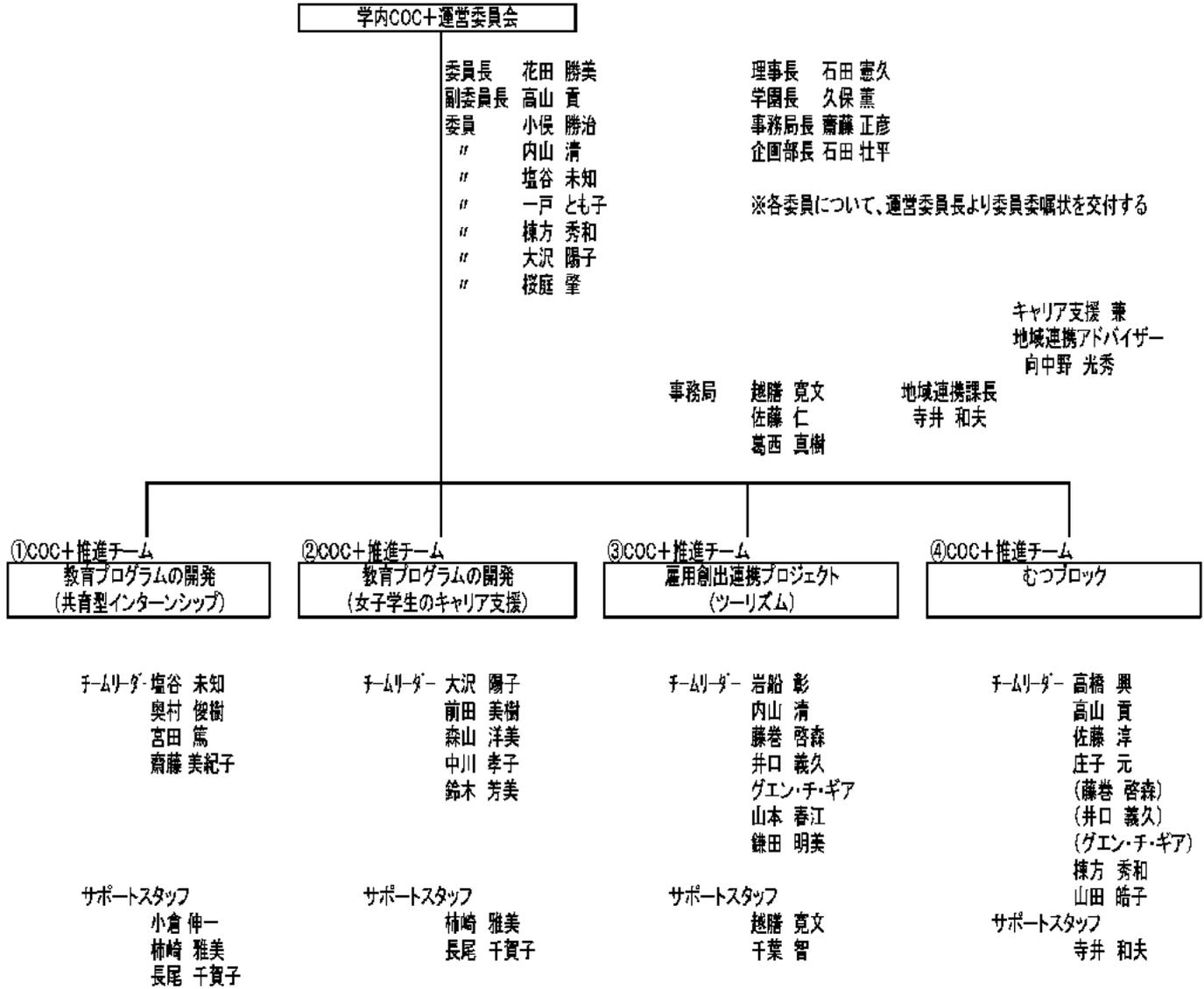
#### 【平成 29 年度第 2 回（通算 5 回）COC+運営委員会】

日 時	平成 29 年 12 月 7 日（木）10：00～11：00
場 所	本部棟 8 階会議室
議 事	1 平成 29 年度 COC+（青森ブロック）の進捗状況について 2 平成 29 年度 COC+（青森ブロック）の今後の取り組み 3 その他（意見交換）

#### 【学内 COC+推進チーム（むつブロック）会議】

日 時	平成 29 年 6 月 13 日（火）11：00～11：45
場 所	7 号館 763 号室 ミーティングルーム
議 事	1 平成 29 年度第 1 回 COC+むつブロック会議（弘前大学主催）について 2 平成 28 年度 COC+むつブロック事業実績について 3 平成 29 年度 COC+むつブロック事業計画について 4 その他（意見交換）

## 青森中央学院大学COC+学内組織図 (平成29年7月1日)



(2) 青森県立保健大学COC+推進学内組織

**教育プログラムWG会議**

開催数：年3回程度

青森県立保健大学（主査）

**開発・実施委員会**

**(学内委員会)**

開催数：年3回程度

上泉和子顧問

小山内豊彦特任教授

鹿内亮一教務学生課長

**開発・実施委員会**

**(学内小委員会)**

開催数：年3回程度

角濱春美教授

鄭佳紅准教授

廣森直子講師

小林昭子助教

佐藤しのぶ助教

村上眞須美講師

小向千草就職相談員

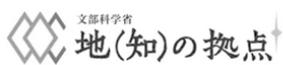
東北女子大学

弘前学院大学

弘前医療福祉大学

青森中央短期大学

(3) その他 (青森 COC+推進機構リーフレット)



平成27年度採択  
文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



# オール青森で取り組む 「地域創生人財」育成・定着事業

青森COC+推進機構

ごあいさつ



弘前大学は平成26年度にCOC事業採択を受けて、地域志向教育改革を中心に進めてきましたが、平成27年度からはさらなる強化とより明確な目標をもってCOC+事業に採択されました。

このCOC+においては、「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着」をテーマとして、青森県や県内の自治体及び大学・高専をはじめ、多くの企業・団体等のご協力をいただき、地域活性化に寄与する人財の育成を全県態勢で進めることとしています。ご理解をいただいた皆様に感謝するとともに、この事業によって、私たちの使命である地域活性化への貢献が一層加速されるようになったことを大変喜ばしく思っています。

今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い致します。

青森 COC+推進機構長 佐藤 敬  
弘前大学長



人口減少は地域経済の縮小や地域コミュニティの機能低下など、本県の社会経済に大きな影響を及ぼすことから、人口減少の克服は県政の最重要課題となっています。

このため、県では「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」を策定し、本県の強みをとことん生かした魅力あふれるしごとづくりや、若者の県内定着の促進など、人口減少克服に向けた取組を強力に進めることとしています。

こうした中、本事業では、弘前大学が中心となり、県内の大学等、青森市、弘前市、八戸市及びむつ市、さらには県内企業、団体等が、地域創生人財の育成・定着を進めることとされており、非常に心強く感じています。

将来にわたって持続可能なふるさと青森県の実現に向け、皆様と一緒に全力で取り組んでいきます。

青森県知事 三村 申吾

地域で生活し、地域で働き、地域創生に

青森COC+推進機構

平成27年11月26日、本事業に参画する青森県内の大学・高等専門学校・青森県はじめ4市の長が一堂に会し「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る連携・協力に関する協定」を締結しました。同日、本協定を受け、弘前大学長を機構長とする「青森COC+推進機構」が発足しました。同推進機構はCOC+事業全体を統括し、「オール青森」による取組を進めます。

青森 COC+推進機構	機構長	弘前大学長
	副機構長	青森中央学院大学長 八戸工業高等専門学校長
	監事	青森県立保健大学長 八戸学院大学長

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る連携・協力に関する協定締結式



事業目的

オール青森  
「地域創生」

人口減少克服

青森県の最大の課題として、人口減少による地域経済の縮小や地域コミュニティの機能低下など、本県の社会経済に大きな影響を及ぼすことから、人口減少の克服は県政の最重要課題となっています。



# 地域創生に取り組む「地域創生人財」の育成・定着を目指します。

## 事業目的

### オール青森で取り組む 「地域創生人財」育成・定着事業

人口減少克服に向け、青森の力を結集します。

青森県の最大の課題である「人口減少克服」のために、青森県内の大学・高等専門学校計10校と、青森県、青森市・弘前市・八戸市・むつ市の4市、100を超える県内企業・団体・NPO等による「オール青森」ネットワークを形成し、「地域創生人財」の育成と、学生の青森県内への就職や起業支援、雇用創出に丸となって取り組み、平成31年度までの5年間で、学生の青森県内への就職率を平成26年度から10%向上させることを目標にしています。



## 事業内容

### 青森県内での就職・起業を支援します。

「青森県内の企業に就職」や「青森県で起業」を目指す学生を支援します。

- 学生企画による企業調査・就職説明会
- アドバイザーによる起業支援
- 地元企業の若者ネットワークづくり
- 就職後のキャリアアップ支援

など

### 青森県の未来を担う人財を育成します。

「地域創生人財」を育成する教育プログラムを開発・実施します。

- 地元企業・地域共育型インターンシップ
- 女子学生のキャリア支援プログラム
- 学生発起業実行プログラム

### 大学発新産業で雇用創出を目指します。

青森県の強みである4分野で、各大学・企業等のチーム力による雇用創出を目指します。

アグリ(農林水産) / ライフ(医療・健康・福祉)  
グリーン(環境・エネルギー) / ツーリズム(観光)

## 事業目標

項目	平成26年度	平成31年度(目標値)
事業協働地域就職率	38.1%	48.1%
事業協働機関へのインターンシップ参加者数	190人	500人
事業協働機関からの寄付金額	178,160千円	200,000千円
事業協働機関雇用創出数	46人	66人

## オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業 事業協働機関

【COC+大学】弘前大学【参加大学等】青森県立保健大学／東北女子大学／八戸工業大学／弘前学院大学／八戸学院大学／青森中央学院大学／弘前医療福祉大学／青森中央短期大学／八戸工業高等専門学校【参加自治体】青森県／青森市／弘前市／八戸市／むつ市【参加企業等(青森ブロック)】青森朝日放送(株)／(株)青森銀行／青森経済同友会／(一社)青森県銀行協会／青森県警察本部／(一社)青森県工業会／(一社)青森県情報サービス産業協会／青森県信用組合／青森商工会議所／(株)青森テレビ／青森放送(株)／(NPO)青森未来エネルギー戦略会議／(株)大坂組／(株)オカムラ食品工業／(協組)カクヒログループ／(株)サンワドー／(株)JR東日本青森商業開発／(一社)慈恵会／(協組)タッケン／(同)tecoLLC.／(株)東奥日報社／(公財)21あおもり産業総合支援センター／(株)ビジネスサービス／(株)富士清ほりうち／(医)芙蓉会／(NPO)プラットフォームあおもり／丸大堀内(株)／(株)みちのく銀行【参加企業等(弘前ブロック)】青森県農村工業農業協同組合連合会／(公財)鷹揚郷／カネショウ(株)／キヤノンプレジジョン(株)／(株)小林紙工／(株)シバタ医理科／東奥信用金庫／東北化学薬品(株)／弘果弘前中央青果(株)／(株)弘前公益社／弘前航空電子(株)／弘前商工会議所／フジプラント(株)／ブナコ(株)／前田酒類食品販売(株)／マルマンコンピュータサービス(株)／三ツ矢交通(株)／(株)陸奥新報社／(株)ラグノオささき／(一財)黎明郷／六花酒造(株)／青森オリンパス(株)／(地独)青森県産業技術センター／環境保全(株)／(株)木村食品工業／(株)光城精工／(株)あおもり海山／東和電機工業(株)【参加企業等(八戸ブロック)】青い森信用金庫／(一財)青森県工業技術教育振興会／アルバック東北(株)／エスプロモ(株)／エプソンアトミックス(株)／(株)オダプリント／(株)抗菌研究所／(株)サン・コンピュータ／(株)サンデー／(株)ジーアイテック／(NPO)循環型社会創造ネットワーク／大平洋金属(株)／武輪水産(株)／多摩川精機(株)八戸事業所／中発テクノ(株)／(有)塚原／(株)デーリー東北新聞社／東京鉄鋼(株)環境リサイクル事業部／東北建機工業(株)／東北容器工業(株)／トゥルージオ(株)／ノーザンライツ(株)／八戸ガス(株)／八戸鉱山(株)／八戸酒造(株)／八戸商工会議所／八戸製錬(株)八戸製錬所／八戸セメント(株)／(公財)八戸地域高度技術振興センター／(株)マーシュ／マネックス証券(株)／マルヨ水産(株)／三菱製紙(株)八戸工場／三八五自動車整備工業(株)／三八五流通(株)／(株)よこまち／(株)吉田産業／(株)リゲイン／(株)ササキコーポレーション／(有)身土不二／太子食品工業(株)／大蔵工業(株)／(株)東北産業／東北三吉工業(株)【参加企業等(むつブロック)】(有)サンマモルワイナリー／(NPO)ぶらっと下北／むつ商工会議所／(株)マエダ／(国研)日本原子力研究開発機構青森研究開発センター／日本原燃(株)／むつ小川原港洋上風力開発(株)

### 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」とは

大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組に文部科学省が支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

ALL  
AOMORI  
COC+

### 青森COC+推進機構

事務局 国立大学法人弘前大学  
〒036-8560  
青森県弘前市文京町1番地  
TEL 0172-39-3305/3306  
FAX 0172-39-3309  
E-mail coc@hirosaki-u.ac.jp  
Web <http://coc.hirosaki-u.ac.jp>

平成 27 年度採択 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」  
オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業  
平成 29 年度 事業実績報告書(青森ブロック)

平成 30 年 3 月発行

編集・発行：青森 COC+推進機構（青森ブロック）  
事務局：青森中央学院大学 COC+事業推進事務局  
〒030-0132 青森市横内字神田 1 2 番地  
Tel(017)728-8161(直通) Fax(017)738-8333



**ALL AOMORI COC+**